

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第2区分
 【発行日】平成27年5月7日(2015.5.7)

【公表番号】特表2013-520840(P2013-520840A)
 【公表日】平成25年6月6日(2013.6.6)
 【年通号数】公開・登録公報2013-028
 【出願番号】特願2012-555039(P2012-555039)
 【国際特許分類】

H 0 1 G 11/22 (2013.01)

H 0 1 G 9/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 G 9/00 3 0 1 A

H 0 1 G 9/24 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年3月19日(2015.3.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1種類の活性炭、実質的に繊維化されていないポリテトラフルオロエチレン、および水を実質的に含む媒体を含む配合物からなる炭素電極バッチ材料。

【請求項2】

前記少なくとも1種類の活性炭が、1マイクロメートルから10マイクロメートルに及ぶ平均粒径を有する粉末であることを特徴とする請求項1記載の炭素電極バッチ材料。

【請求項3】

前記少なくとも1種類の活性炭が前記バッチ材料の少なくとも80質量%を構成することを特徴とする請求項1または2記載の炭素電極バッチ材料。

【請求項4】

スチレン-ブチジエンゴムコポリマーから選択される少なくとも1種類の第2の結合剤をさらに含むことを特徴とする請求項1から3いずれか1項記載の炭素電極バッチ材料。

【請求項5】

炭素電極材料を製造する方法であって、
 少なくとも1種類の活性炭、実質的に繊維化されていないポリテトラフルオロエチレン、および水を実質的に含む媒体を含む配合物からなる炭素電極バッチ材料を混合し、
 前記バッチ材料を二軸スクルー押出機に通して、押出材料を作成し、
 前記押出材料をカレンダー加工して、カレンダー加工済み材料を作成する、
 各工程を有してなり、
押出し前に前記炭素電極バッチ材料の繊維化が実質的にないことを特徴とする方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

様々な例示の実施の形態において、炭素電極を形成するための炭素電極バッチ材料は、

少なくとも1種類の活性炭、少なくとも1種類の結合剤、および水を実質的に含む媒体を含み、この少なくとも1種類の結合剤は、実質的に非繊維状の（フィブリ化されていない）ポリテトラフルオロエチレン（PTFE）を含む。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

様々な実施の形態において、バッチ材料中に存在する少なくとも1種類の結合剤は、実質的に非繊維状の（フィブリ化されていない）PTFEであってよい。PTFEに関してここに用いたように、「実質的に非繊維状の（フィブリ化されていない）」とは、PTFE粒子が、バッチ材料の調製前または調製中に、例えば、高剪断力による混合によって、材料の繊維性を生じるようにされていない、すなわち、それらがまだ繊維状ではないことを意味することが意図されている。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

追加の実施の形態において、炭素電極バッチ材料は、押し出し前に繊維化（フィブリル化）（fibrillation）が実質的にない。バッチ材料に関してここに用いたように、「繊維化（フィブリル化）が実質的にない」という表現およびその変形表現は、このバッチ材料が、例えば、高剪断力を伴う混合によって、少なくとも1種類の結合剤の繊維性を生じさせるため、押し出し前に加工されていないことを意味することが意図されている。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

本開示の少なくとも1つの実施の形態において、バッチ材料の少なくとも1種類の結合剤は、二軸スクリュウ押し出し機のスクリュウにより印加される剪断応力によって可塑化されない。さらに、少なくとも1つの実施の形態において、例えば、それぞれ、355倍と725倍の倍率で撮られた図2Aおよび2Bの走査型電子顕微鏡画像に示されるように、少なくとも1種類の結合剤の押し出しにより、多数の繊維化された（フィブリ化）結合剤粒子が合体することも、実質的な凝集塊を形成することもない。むしろ、結合剤は、201および202で示されるように、合体せずに繊維化（フィブリ化）され、それによって、押し出し材料中の成分の実質的に均一な分布をもたらす。